

高校生

大学生

社会人

ドラフト候補&指導者マンツーマンインタビュー

05

高校生

九州学院高校

村上宗隆

Munetaka Murakami

捕手

高校通算52本塁打を放った「肥後のペーブルース」
打って守って走れる大型捕手がプロで勝負を決断!



村上宗隆(むらかみ・むねたか)

187センチ95キロ/右投左打。2000(平成12)年2月2日生まれ、熊本県熊本市出身。長嶺中時代は熊本東シニアに所属し、九州選抜にも名を連ねた。九州学院高では1年夏の甲子園に出場。同じ右投左打の清宮幸太郎(早稲田実)と比較され「肥後のペーブルース」として注目された。高校通算52本塁打。打って守れる大型捕手として期待される世代屈指の長距離砲だ。

監督からの通信簿

| | | |
|---|-----|------------------|
| 心 | 5 | 積極性、前向きな姿勢は素晴らしい |
| 技 | 5 | 走攻守のすべてにおいて超高校級 |
| 体 | 3.5 | 未完成。体幹はまだまだ強くなる |

一番の武器

相手の戦意を打ち砕く打撃力

守備・走塁に関する証言

◎監督/地肩の強さに加えてコンロールが向上し、送球に安定感が出てきました。捕球技術も高校レベルでは十分すぎるレベルではないでしょうか。また、盗塁が大好きなように走る意欲に満ちている点も好感が持てます。

◎本人/肩に自信がないぶん、捕球から送球までを極力早くしようと心掛けています。もちろんすべての面で守備の課題は山積みです。

●坂井宏安監督の証言

★最初の印象

私たちが2015年のセンバツから戻ると、解禁に合わせて村上が練習に合流しました。まず、バツイングの面で圧倒されましたね。「どうしてこれだけの選手が全日本に入っていないのか?」と思いました。性格も明るいし、すぐに使えると直感しました。

★入学即スタメン

入学と同時に4番を任せました。当時は松下且興(明治大)や友田晃聡(上武大)ら力のある打者が前後にいたので、安心して中軸を任せることができました。1カ月後の九州大会では初打席でタイムリーと結果を残し、期待に添えてくれました。いいものを持つた選手は、どんどん使って伸ばす。私の指導方法にもうまくマッチしてくれたと思っています。

★清宮との初接触

1年の5月にウチのグラウンドで早稲田実と練習試合を行ない、村上が清宮幸太郎君の前で高校第1号となる一発を放つと、清宮君も負けじとホームランで応酬。あ

の時に「同学年にも上には上がない」ことを知ったはずですが。入学してすぐの5月に自分自身を見つめ直すことができました。まさに最高のタイミングでしたね。

★無念の甲子園

1年夏の甲子園は4打数ノーヒットに終わりましたが、打撃の調子は悪くなかったです。それに初めての大会に物怖じしたところもなく、大器の片鱗を感じることもできました。欲を言えばもう何試合かこなして、温まった状態での打席を見たかったですね。

★捕手転向

野球に関しての頭脳を磨き、もつと野球を知ってほしかったので、1年秋にキャチャーに転向させました。仕事量が多いポジションなので、バッターとしては一番きついことをさせたのかもしれないですが、結果的には成功でしたね。

★これから

とにかく野球が好きで、根が素直な子です。今のまま喜びを素直に表現できる選手であってほしい。「野球とはこんなに楽しいスポーツなんだ」ということを体現できる選手であってほしいです。